

ニヤヤ

県内2高校演劇部 四国大会へ

徳島市立が最優秀賞 城東が第2席



作り込まれたセットが高校生のリアルさを際立たせた徳島市立の「ユメちゃん
はいいつも不機嫌」の一場面＝あわぎんホール

四国大会で完全燃焼を誓う
徳島市立演劇部のメンバー



徳島市立 愛ある芝居を目指す

11月に徳島市のあわぎんホールで行われた第37回徳島県高校総合文化祭の演劇部門で、徳島市立が最優秀賞に輝いた。2位の城東と共に、27、28の両日に高松市で開かれる四国大会に出場する。全国大会出場を目指す2校に意気込みを聞いた。

（田尾聡）

演劇部門には14校が出場。徳島市立は顧問の村端 語が展開される。2年生の 1の感情をつくるのではなく、自分の内側にあるものを生かして、生の反応を演じるように掛けた」と振り返った。

登場人物は高校生が中心で、部員は6人。少人数の校舎の屋上につながる階段、部員にとっては等身大の役づくり。2年の柏木唯め、全員で協力して大道具を作る。平日はあつらん、休日もフルに使って、舞台セット作りと稽古を積み重ねてきた。質感にもこだわったセットはまるで学校の一部をそのまま切り取ったように、場面のリアルさを実際させた。

中田部長は「最優秀賞はうれしかったが、県大会の舞台には不完全な部分もある。四国大会では自分たちの力を出し切って温かい愛のある芝居したい」と話す。